

留学報告書

1. 報告事項

1.1 研究内容

大学名 : Imperial College London

所属 : Dyson school

指導教員 : Weston Baxter

研究内容 : Digital Psychological Ownership

IROP に参加するにあたり, Dyson school の Weston 教授の元, 研究を行いました.

研究内容としては, Human-Computer Interaction の分野の一つである『デジタルに対する心理的所有感』に関する研究を行いました. この研究は, 図 1 のように, フレームワークを中心として進めていきました. まず, プロジェクトを開始する前に, 『心理的所有感』についての理解を深めるため, いくつかの参考文献を読み, 心理的所有感についての理解を深めました.

次に, フレームワークの具体的な構築に取りかかりました. このフレームワークは, ユーザーがデジタル環境内でどのように心理的所有感を感じるかを理解し, その感覚がユーザーの行動や感情にどのように影響を与えるかを分析することを目的としています. この分析には, 定性的および定量的な手法を併用し, ユーザーインタビューやアンケート調査を実施しました. 表 1 に実際にインタビューに参加していただいた人たちのサマリーを載せています. また, 図 2 に示すように, 特定のデジタルツールやサービスを使用した際の心理的所有感を測定し, その結果をフレームワークに反映させました.

研究の結果, ユーザーがデジタルデータやサービスに対して強い心理的所有感を持つ場合, 利用頻度が増加し, また, 他の競合サービスに対するロイヤリティも向上することが確認されました. これにより, 心理的所有感がユーザーエンゲージメントにおいて重要な役割を果たすことが示されました.

最後に, このフレームワークをさらに発展させるために, 異なるデジタルコンテキストや文化圏での検証を行う必要があると考えています. この研究は, 将来的にデジタルプロダクトデザインやサービス提供の方針に対して新たなインサイトを提供する可能

1.2 IROP 学生間での交流

今回、IROP への参加を決めた最大の理由は、このプログラムを通じて学生同士が交流できる機会があったからです。今回は、5つの大学から学生が各国より集まり、IROPに参加しました。私たちはお互いの研究分野や将来のキャリアについて深く話し合い、それぞれが普段では得られない貴重な情報を共有することができました。

特に、他国から見た日本の文化や研究がどのように評価されているのかを知ることができたことは、非常に有意義でした。また、様々な文化圏の学生たちと触れ合う中で、それぞれの国の文化や知識を吸収する機会が得られ、大変貴重な経験となりました。さらに、ここで築いた人脈は、今後の人生において必ず役立つものと確信しております。また、このような交流を通じて、異なる視点や価値観を学ぶことができたことは、私にとって大きな財産となりました。

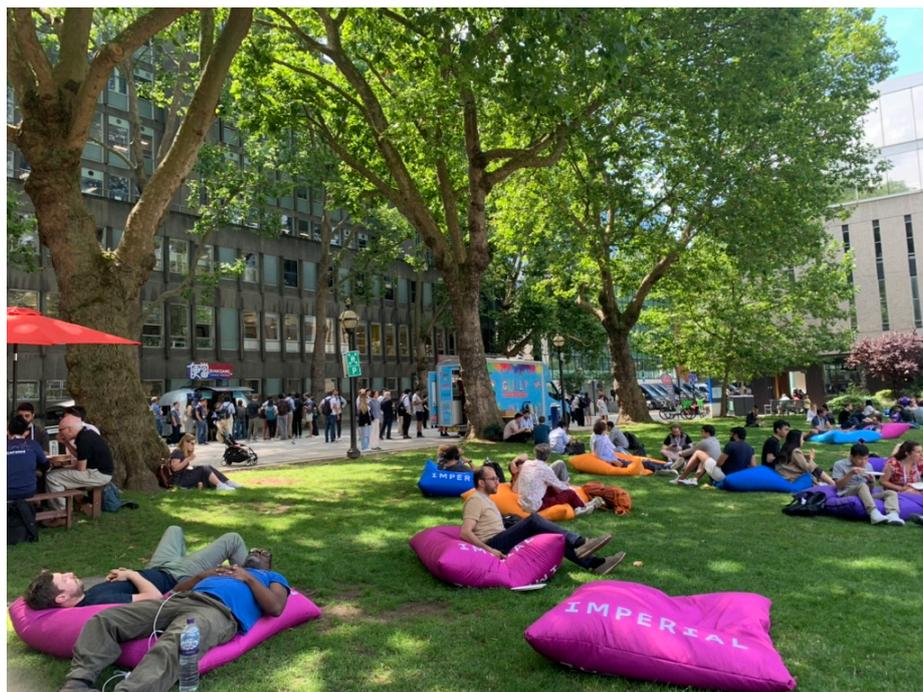


写真 1.Imperial College London の様子



写真.2. IROP 集合写真



写真 3.研究室のメンバー



写真 4.IROP の学生との交流

1.2 イギリスでの生活

2ヶ月間ロンドンに滞在しました。英語圏での日常生活を送る中で、スピーキング力とリスニング力が確実に向上したと感じています。さらに、ロンドンの美しい街並みを日常的に楽しむことができ、とても色鮮やかな日々を過ごしました。

インペリアル・カレッジの近くには、3つの大きな博物館があり、すべてを訪れることができました。ヴィクトリア&アルバート博物館では世界の歴史を学び、ロンドン自然史博物館では生物の歴史や化石に触れ、科学博物館では世界の文明の進化を知ることができました。これらのミュージアムは、日本ではなかなか見ることのできない規模と内容で、非常に刺激的で学びの多い施設でした。

これらの貴重な経験は、人生においてそう多く得られるものではないと思います。このような機会を与えてくださった Tazaki 財団の皆様に、心から感謝申し上げます。



写真 5. ロンドンの街並み





写真 6. 博物館

林 寛隆

謝意

この度は、IROP への参加に際し、Tazaki 財団様より多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。貴財団のご支援がなければ、この貴重な留学の機会を得ることはできませんでした。

今回の経験は、私の今後のキャリアを築く上で大変重要な糧となりました。IROP に参加した 5 大学の学生との交流は非常に有意義であり、各大学の情報交換に加えて、将来の進路についてもお互いに意見を交わすことができました。これにより、今後のキャリアに対する視野が大きく広がりました。また、異なる文化や価値観を持つ人々との交流を通じて、自分自身の視野を広げ、新たな発見をすることができました。特に、グローバルな視点で物事を考える力が身についたことは、今回の留学で得た最大の成果の一つと感じております。この経験が将来のキャリアに大いに役立つと確信しております。さらに、IROP を通じて築いた友人関係やネットワークは、今後も続けていきたいと考えております。これらのつながりは、将来的に共同研究やプロジェクトで再び交わる可能性があり、非常に貴重なものだと感じております。今回の留学で得た知識や経験を、今後の学びや仕事に活かし、日本と海外の架け橋となれるよう努めてまいります。

最後に改めて、貴財団からのご支援に深く感謝申し上げます。